

NIE実践指定校の竹田南部中

朝自習でマイ紙面



活字の力

2023 新聞週間

= 上 =

竹田市君ヶ園の竹田南部中(佐竹正敏校長、122人)は毎週木曜日の午前8時に、全校生徒が一堂に新聞を広げる。15分間の自習時間を活用してスクラップ作りを取り組んでいる。

新聞のスクラップに記事の要約と自分の考えを書き添えた用紙を手にする生徒＝9月29日、竹田市君ヶ園、撮影・安里葉冬

9月下旬、2年生の教室では生徒が慣れた手つきで紙面を切り抜き、用紙に貼り付けた。記事の要約と、自分の感想や意見も書き添えた。
得丸凜花さん(13)は医師の長時間労働を扱った記事を選んだ。「将来の進路を考え始め、いろんな職業の働き方に注目している」と理由を説明した。
同校は日本新聞協会が認定するNIE(教育に新聞を)の実践指定校。スクラップを廊下や階段にすらりと張り出している。コラムの読解にも力を入れており、2年の大塚陽翔さん(14)は「文章の起承転結をつかめるようになった」と手応えを話す。
「新聞は良質な文章で社会情勢を学べる生きた教材。読むのを習慣化すれば、勉強の読み書きも抵抗感がなくなる」。国語の佐藤美登里教諭(63)は教育現場で

「読解力、表現力が向上」

用いる意義を強調する。目に見えた効果も出ている。テストの記述問題は無解答がほとんどなくなった。校内のアンケートでは「読解力・表現力が向上した」と答えた生徒が84%に達した。
3年の広瀬泉穂さん(15)は、同協会が主催する本年度の新聞配達エッセーコンテストで中高生部門の最優秀賞に輝いた。「字数制限がある中で自分の意見をまとめる力が付いたおかげ」と喜んだ。
竹田市教委は学力向上につなげようと、同校を含めた市内の全4中学校で新聞のコラムを使った学習に取り組んでいる。学校教育課は「新聞を通して、さまざまな情報を読み解く能力を身に付けてほしい」と述べた。
(安里葉冬、指原祐輔) 15、21日は「新聞週間」。暮らしや学びに生かす読者、各家庭に毎朝届ける配達員の姿を紹介する。



顔写真が主催する本年度の新聞配達エッセーコンテストで中高生部門の最優秀賞に輝いた。1字